



山から流れてきた大きな石がいまだに多く残るチャリカの街

ジェンは、長年チャリカで活動した経験から、標高が高く、厳しい冬が間近に迫っているこの地で、土石流で家をなくされた方々のために、どの様な

胸がつぶれる思いです。ジェンは、長年チャリカで活動した経験から、標高が高く、厳しい冬が間近に迫っているこの地で、土石流で家をなくされた方々のために、どの様な胸がつぶれる思いです。



流木やがれき、岩などが家の中まで流れ込んでいます

「アフガニスタン」 ● 土石流災害支援 厳しい冬を超えるための “あたたかい” 支援が必要です

8月26日、深夜から降り始めた雨が、未明には鉄砲水となってアフガニスタンの11の県で土石流の被害をもたらしました。中でも被害が甚大だったパルワン県のチャリカは、ジェンが2002年から支援活動を行ってきた場所でもあります。この事態を受けて、ジェンは緊急出動を決定しました。

災害から1ヶ月ほどたちましたが、街はいまだに大量の土砂に覆われていて、通行のために道を開けた道路端には、大量の流木やがれきや岩や泥が無造作に積みあげられたままの状態です。特に人の頭よりも大きな石が大量に流されてきて、まだ撤去されていない様子を見ると、被災された皆さんはどれほど怖い思いをされたかと胸がつぶれる思いです。

ジェンは、長年チャリカで活動した経験から、標高が高く、厳しい冬が間近に迫っているこの地で、土石流で家をなくされた方々のために、どの様な胸がつぶれる思いです。

かたちの越冬支援が最適かを検討しました。彼らは今、親戚や友人宅に身を寄せています。元々裕福でなく、手狭な親戚や友人の家では、暖房器具のない部屋にいるため、厳しい冷え込みが予想されます。そこで、サンダリと呼ばれる日本のこたつのような暖房器具の配布を検討しています。他の団体の支援計画と重なりがないか、こたつを置けるスペースがあるか、などを再確認し、実施していきます。ぜひご支援をよろしくお願いいたします。

アフガニスタンで、女の子が安心して学ぶ機会を!



「片道20分、1日に最低3回の水汲みから女性や子どもを解放したい」と、片道2分以内の場所に給水ポイントを作る事業を計画したのは、アフガニスタン出身のジェンの男性職員でした。女性が生き生きと学び働くことが、女性本人だけでなく、家族全員にとっても良い人生を築くことにつながっていくと確信した彼らは、女子教育推進の事業も提案してきました。

女の子が安心して通学できるように、男性の視線から守る外壁やトイレなどを建設するハード面の支援と同様に、親御さんや地元の宗教指導者に、女子教育の重要性を理解してもらうソフト面の支援も重要です。「幸せを願うからこそ、娘たちは家にいるべきだ」と信じている親はまだまだいるのです。その考えがどこから来ているのか、教育を受けることは、大事な娘に不幸をもたらすどころか、家族全員を幸せにするといったことなどを丁寧にひも解き、理解を深め、協力を得ていく予定です。

自分自身が考えを変化させてきたという自信に裏打ちされて、女性活躍を支えるプロジェクトがアフガニスタンで始動します。今後の活動報告にぜひご期待ください。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

スタッフひとこと

6月に入職し、アフガニスタンを担当している松浦見子です。長かった夏が終わり、果物がおいしい季節がやってきましたね。アフガニスタン、ナンガルハル県にあるガンベリ公園(故中村哲氏が建設)には、ザクロやオレンジ、桃、レモン等、たくさんの果物や穀物が栽培されているそうです。とても美しい場所だと聞いているので、いつかぜひ訪れてみたいと思っています。

長く続く紛争や大きな災害のあとで「生きる力」を支えていく JENの活動へのご支援のお願い



生きるちからマンスリーサポーター

月々1,000円から始められる定額自動引き落とし型の寄付プログラムです。年4回発行のニュースレターをお届けするほか、活動報告会などさまざまなイベントのご案内をいち早くお知らせいたします。



書き損じのハガキや切手でのご寄付

あなたの未使用の(書き損じ)年賀状や官製ハガキ(郵政ハガキ)または、未使用切手をジェンの東京本部にお送りください。ジェンの支援活動のために活用させていただきます。



使わなくなったアクセサリや、カメラなどは...

お宝エイド

<https://www.jen-npo.org/otakara-eido/>



読み終えた本や、DVD、ゲームソフトは...

BOOK MAGIC

<https://www.jen-npo.org/bookmagic/>



ファッションアイテムはご寄付も購入も支援に...

Fashion Charity Project

<https://www.jen-npo.org/fcp>



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示する場合がございます。間違っても広告をクリックされないようご注意ください。

東京本部事務局の住所について

今回ニュースレターをお送りする際に使用している封筒の記載住所は旧住所となります。修正に要する費用などを勘案した結果、封筒に表示する住所については、当面古いまま使用し続けることといたしました。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。

NPO JEN 検索 ホームページ <https://www.jen-npo.org/> Japan.Emergency.Ngo @NGO_JEN

*書き損じハガキや切手の郵送にお使いください。



特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

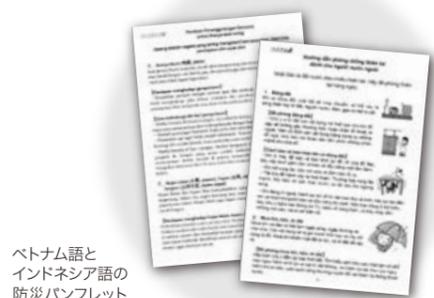


このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。





防災研修の様子



ベトナム語と
インドネシア語の
防災パンフレット

「アフガニスタン」 ● 水・衛生環境改善支援 子どもたちを水汲みから開放し、 安全な水を届ける

2016年以降、自主的に帰還した45万人を超える人々の帰還先の一つであるアフガニスタン・ナンガルハル県。中でも、チャバルハル地区は、2019年になってからアフガニスタン政府が掌握した地域で、帰還民支援や復興のニーズが最も高い地域です。とくに、水・衛生環境が整っておらず、住民の約2人に1人が安全な水を十分に確保することができないといわれています。住民への聞き取り調査でも、近くの小川や浅井戸の必ずしも安全ではない水を飲んでいたり、3km以上も離れたモスクの井戸まで毎日少くとも3回、多くて7回も往復する子どもたちがいることが確認されました。

そこでジェンは、チャバルハル地区のグルシヤンアバド村で、水・衛生環境の改善支援を9月にスタートしました。事業内容は大きく2つあります。一つ

「宮城県丸森町」 ● 防災研修活動 災害研修を通して、 住民の防災意識の高まりを実感

令和元年台風19号で被災した宮城県丸森町で開催してきた防災や復興に関する研修は、20回を超えました。これまで男性181名、女性259名の合計440名にご参加いただきました。ジェンの研修をうけたあと、各地域の住民のみならず、各主体となって、独自の学習会や防災体制の改善に取り組みされていると聞き、防災意識の高まりを感じています。

また、町内在住の外国人の方から、「言葉の壁があり、自治

めが、井戸の建設と維持管理体制を構築することです。深さ110mの太陽発電式深井戸を建設し、連結された20箇所の給水所へ高低差を利用して水を運びます。この給水システムによって、360世帯、約2500人の住民たちが、安全な飲料水を徒歩2分の場所ですぐに入れることができるようになります。また、給水施設の維持管理を目的とした井戸管理委員会を地域住民で組織し、支援終了後も自分たちで給水施設を維持・管理するための体制をつくりま



小川の濁った水を汲む子ども

水汲みで往復する幹線道路では、車との接触事故も多発してとても危険です

※本事業は、ジャバングラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。

新型コロナウイルス緊急支援



宅配で届けられるさまざまな食材

活動内容
宮城県



食料配布時の様子

活動内容
パキスタン

せんだいこども食堂さんを通じて、ひとり親世帯50世帯を対象に、食料品の宅配と子どもたちの文通事業を支援しています。こども食堂を利用したことのある子どもたちとの文通事業「白やギプロジェクト」では、アマビエの4コマ漫画連載、折り紙を使った小物など、スタッフそれぞれの得意分野を活かした作品が届けられます。また、クイズを盛り込むなどの工夫をすることで、子どもたちからの返事も少しずつ増えているといううれしい報告もありました。コロナ禍で失業者が増え、家計の切迫だけではなく、心身の不調から、子どもの不登校が増えていると聞きます。このような状況だからこそ、宅配・文通事業を通じた「つながり」を大切にすることが大切だと思います。

パキスタン・カシミール地方ミルプール県では、食料と衛生用品の配布時に行った衛生啓発活動が実をむすび、多くの家庭で石けんを使った手洗い習慣が定着しています。配布後のモニタリング調査では、越冬支援で構築した女性委員会のメンバーが積極的にサポートしてくれ、地域の力を強化・活性化する支援活動は、持続的な効果を生むということを改めて実感しました。ジャバングラットフォームのご支援で実現した越冬支援の活動中に発生した新型コロナウイルス感染症拡大で、住民にとっては二重苦となりましたが、医療体制が脆弱なパキスタンでは、一人ひとりの衛生知識を高めることが不可欠です。今後も、現地の状況に合わせて支援活動を続けていく予定です。

「パキスタン」 ● バッタ駆除緊急支援 バッタが大量発生 農作物被害の拡大を未然に防ぐには

アフリカ大陸東部で発生したバッタの大群が海を超えて、パキスタンでも群れが発生し、農作物や牧草に大きな被害が出ています。ハイバル・パフトゥンハール州・カーン県とシンド州・パールカーン県も例外ではありません。

バッタは増殖スピードが速く、3ヶ月ごとに繁殖して、条件を整えば1世代で20倍にまで増殖するといわれています。バッタの大量繁殖を未然に防ぐためには、発生地域を監視して、卵や幼虫の時期から防除する必要があります。

ジェンは、D・Iカーン県とパールパーカーン県を対象に、バッタ駆除グループを結成し、



フィールド調査を行うジェンの現地職員

※2020年9月2日発行
※本事業は、ジャバングラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。

あなたのお力を貸してください。

「新型コロナウイルス緊急支援」のご寄付はこちらから
<https://sforce.co/3if90Tv>

